

日本情報考古学会会報

NEWSLETTER OF THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION No.37 January 2016

目次

日本情報考古学会第 35 回大会 in Tokyo の記録	1
日本情報考古学会第 35 回大会プログラム (記録)	2
2015 年度日本情報考古学会総会報告	3
2015 年度第 1 回理事会議事録	3
2015 年度日本情報考古学会賞	4
第 36 回大会の開催について	4

日本情報考古学会第 35 回大会 in Tokyo の記録

2015 年 10 月 3・4 日の両日、日本情報考古学会第 35 回大会が共立女子大学神田一ツ橋キャンパスで開催されました。研究発表は 24 件、うち 6 件はポスター発表でした。特別講演は、小田静夫先生に「日本最古の旧石器文化について」、小野昭先生に「黒曜石から見る石材の流通問題：歴史的経緯と現状」と題して行っていただき、参加者は真剣に聞き入っていました。併せて、総会、学会賞授賞式も開かれました。

今回も発表分野は多岐にわたり、興味深い研究が多くありました。また、野口淳氏他によるパキスタンの文化遺産の再記録化や、中園聡氏他による中国と日本の中国系瓦の同范関係の証明など、国際的に報道されたホットな話題も関心を集めていました。



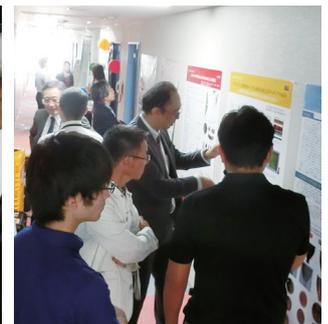
一般講演。会場の様子。



特別講演。小田静夫先生 (左)、小野昭先生 (右)。



学会賞授賞式



ポスターセッション



一般講演



懇親会



ブース展示



※入手ご希望の方は事務局まで。

日本情報考古学会第35回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第35回大会は、以下のような日程・内容でした。記録としてプログラムを掲載します。

期日：2015年10月3日（土）・4日（日）

会場：共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス（東京都千代田区一ツ橋2-2-1）本館5階510

第1日 10月3日（土）

開会式 13:00-13:10 大会実行委員長 植木 武

一般講演（座長 中園 聡）

研究発表 1 13:10-13:30

航空レーザー測量地図による前方後円墳の築造方法に関する研究（2）—西殿塚古墳前方部築造の施工について—
西村 淳（函館大学）

研究発表 2 13:30-13:50

現代石工の身体技法—香川県小豆島における花崗岩を割る技術—
川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

研究発表 3 13:50-14:10

土器の痕跡を読む—民族考古学的観点から得られた情報をもとに—
平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 4 14:10-14:30

胎土分析の論理
三辻利一（鹿児島国際大学）

研究発表 5 14:30-14:50

弥生土器の形態比較—三次元的検討を含む北部九州～南九州の比較—
黒木梨絵（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

一般講演（座長 廣田吉三郎）

研究発表 6 15:00-15:20

北部九州弥生時代における甕棺墓制・葬制の地域比較—三次元コンピュータグラフィックスの応用—
新屋敷久美子（（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

研究発表 7 15:20-15:40

パキスタンにおける文化遺産の再記録化プロジェクト：情報化時代における国際協業の枠組み
野口 淳（NPO 南アジア文化遺産センター）、千葉 史、横山 真（（株）ラング）、内記 理（京都大学）、ムハンマド・ザヒル（ハザーラ大学）、ナシール・ハーン（タキシラ博物館）、近藤英夫（東海大学）

研究発表 8 15:40-16:00

西南アジアの遺跡出土遺物を用いた地磁気研究
菅頭明日香、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）

研究発表 9 16:00-16:20

窯跡における磁気探査および窯体の磁化の研究
酒井英男、泉 吉紀（富山大学理工学研究部）、宇野隆夫（帝塚山大学文学部）

研究発表 10 16:20-16:40

地中レーザ探査によるシベチャリチャシ跡とホイナシリチャシ跡の研究
泉 吉紀（富山大学）、中村和之（函館工業高等専門学校）、斉藤大朋（新ひだか町博物館）、酒井英男（富山大学）

ブース展示※ 16:40-16:50（解説時間）

特別講演 1 16:50-17:50

日本最古の旧石器文化について
小田静夫先生（元 東京都教育庁学芸員）

懇親会 18:00- 学生食堂（本館4階）

第2日 10月4日（日）

一般講演（座長 山口文彦）

研究発表 11 10:00-10:20

持続可能な土器修復の試みについて
岩月真由子（岩月文化財保存修復研究所）、岡安光彦（株式会社四門）

研究発表 12 10:20-10:40

埋葬遺物の配置と埋葬姿勢からみる北村遺跡の墓の象徴性
中川朋美（岡山大学大学院社会文化科学研究科）

研究発表 13 10:40-11:00

鹿児島県三島村黒島の中世遺跡の調査成果—情報考古学的記録とパブリックアーケオロジーの実践—
平川ひろみ、中園 聡、太郎良真妃、白井菜実、下小牧 潤、若松花帆、楊 帆、福留理佳（鹿児島国際大学）、川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

特別講演 2 11:00-12:00

黒曜石から見る石材の流通問題：歴史的経緯と現状
小野 昭先生 明治大学研究・知財戦略機構特任教授（黒曜石研究センター長）

総会、学会賞授賞式 12:00-12:30

ポスターセッション解説※ 13:00-13:40

一般講演（座長 西村 淳）

研究発表 14 13:40-14:00

超・遠隔地交渉における同範関係の検討—中国と日本出土の中世中国系瓦—
中園 聡、太郎良真妃、平川ひろみ、下小牧 潤、楊 帆（鹿児島国際大学）

研究発表 15 14:00-14:20

中世前期における遺跡出土の“宝珠形陶製品”に関する検討—博多遺跡群及び鹿児島県三島村黒島大里遺跡出土資料の機能・用途についての一考察—
下小牧 潤、中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表 16 14:20-14:40

器種における類似性と差異—北部九州弥生時代中期土器における地域的様式と製作者のカテゴリー—
太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 17 14:40-15:00

Zipf 則を指標とするロンゴロンゴ記号の分類
山口文彦（長崎県立大学）

研究発表 18 15:00-15:20

南西諸島先史土器の分類
銘苅耕作（岡山大学大学院社会文化科学研究科）

閉会式 15:20-15:30 会長 植木 武

※ポスターセッション

研究発表 19

博物館活動の一環としての課外活動—香川県小豆島の事例—
川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

研究発表 20

池田古墳とその周辺の前古墳出土土輪の蛍光 X 線分析
三辻利一（鹿児島国際大学）、山田清朝（兵庫県まちづくり技術センター）、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 21

日本出土の中世中国系瓦の蛍光 X 線分析による産地推定
中園 聡、平川ひろみ、太郎良真妃、白井菜実、下小牧 潤、若松花帆（鹿児島国際大学）

研究発表 22

SfM による土器調整痕の三次元形状比較によるマッチングの試み—土器製作者個人の高精度同定法の洗練のために—
太郎良真妃、中園 聡、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 23

土器形態における歪みの記録と比較—三次元形状の検討—
黒木梨絵（鹿児島県立埋蔵文化財センター）

研究発表 24

甕棺墓における墓壇内空間の復元方法の開発—三次元コンピュータグラフィックスを用いて—
新屋敷久美子（（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

※ブース展示（第1日・第2日 両日）

機器展示……アイリス株式会社

小豆島「石の魅力創造プロジェクト」……小豆島町「世界遺産化」対策室

島のミュージアムプロジェクト……持続可能な博物館活動モデル構築へ向けて（代表 川宿田好見）

2015 年度日本情報考古学会総会報告

2015 年 10 月 3 日に共立女子大学で開かれた 2015 年度総会の結果をお知らせいたします。

植田真会員を議長とし以下の審議・報告がなされた。
議題

1. 2014 年度会計報告について
事務局の説明と、適切に処理されていた旨の会計監査報告があり、承認された。
2. 2015 年度予算案について
事務局より説明があり、承認された。引き続き支出を抑える工夫をしている旨、併せて報告された。
3. 日本情報考古学会役員改選について
3 月の役員の任期満了に伴い 1～2 月に選挙を実施予定であり、郵送での投票となる。詳細は選挙管理委員会が定めることが承認された。

報告

1. 次回大会について
九州国立博物館を会場として 2016 年 3 月 26 日・27 日に開催する予定であることが報告された。

日本情報考古学会平成 27 年度予算

収入		支出	
繰越金	891,809	情報考古学第 19 巻 1・2 号印刷費	420,000
会費	736,000	情報考古学第 21 巻 1 号印刷費	100,000
大会参加費	190,000	情報考古学第 21 巻 2 号印刷費	100,000
懇親会費	240,000	第 32 回大会講演論文集印刷費	97,200
ブース展示 出展料	20,000	第 35 回大会講演論文集印刷費	60,000
冊子売上	21,000	第 36 回大会講演論文集印刷費	60,000
		会報 No.36 印刷費	9,000
		会報 No.37 印刷費	18,000
		パンフレット印刷費	9,000
		学会賞トロフィー代	9,000
		会議費	20,000
		懇親会費	160,000
		講師謝金	40,000
		事務局維持費 (含アルバイト代、消耗品費)	172,000
		振込等手数料	4,000
		送料	180,000
		前年度立替金返済	137,565
合計	2,098,809	合計	1,595,765
		次年度繰越金	503,044

2015 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2015 年 10 月 3 日（土）10:00～12:00

場 所：共立女子大学神田一ツ橋キャンパス 本館

出席者：植木武（議長）、及川昭文、川宿田好見、梅澤重昭、中園聡、西村淳、廣田吉三郎

1. 報告

1. 会員動向について
物故者等を含む 9 名減。一方、若手の新入会員が増えつつあり、準会員からの昇格もあった。
2. 学会誌編集委員会報告
学会誌『情報考古学』第 21 巻の原稿が集まりつつあり、刊行の見通しについて報告があった。

2. 審議事項

1. 2014 年度会計報告案について
監査済みの会計報告案について承認された。
2. 2015 年度予算案について
実績を参考にした。過年度の印刷費・立替金返済をすることで懸案を解消できる見通し等が説明され、了承された。引き続き財政健全化に努力する。
3. 学会賞の選考について

日本情報考古学会平成 26 年度決算報告書

収入		支出	
繰越金	303,416	情報考古学第 20 巻 1・2 号印刷費	92,760
会費	953,600	第 33 回大会講演論文集印刷費	57,330
第 33 回大会参加費	95,500	第 34 回大会講演論文集印刷費	49,100
第 33 回大会懇親会費	116,000	会報 No.35 印刷費	14,387
第 34 回大会参加費	89,500	第 33 回大会会場借上料	17,280
第 34 回大会懇親会費	88,000	第 33 回大会会議費	10,575
冊子売上	28,574	第 33 回大会懇親会費	80,600
寄付金	20,000	学会賞賞状代	564
利息	48	学会賞トロフィー代	8,725
		第 34 回大会会場借上料	27,311
		第 34 回大会会議費	9,500
		第 34 回大会懇親会費	69,120
		講師謝金	20,000
		事務局維持費 (含アルバイト代、消耗品費)	199,145
		手数料	4,698
		送料	136,518
		雑損	5,216
合計	1,694,638	合計	802,829
		次年度繰越金	891,809

2015年度の授賞対象の決定が確認された。学会賞は該当なし、論文賞1件、堅田賞（優秀賞）2件。

4. 日本情報考古学会役員改選について
1～2月に選挙を実施予定であること、詳細は選挙管理委員会が定めることが承認された。
5. 論文の学会誌掲載料について
会員の掲載料は無料を維持する。非会員については投稿を可とし、掲載料を徴収することになった。関連して、査読方式の改善について検討された。
6. 次回大会について
第36回大会は、3月26・27日に九州国立博物館で開催する予定であることが報告・承認された。
7. その他
学会PRパンフレットの作成、世界考古学会議WAC-8の開催について、役員選挙の日程等について話し合われた。

2015年度日本情報考古学会賞

2015年度日本考古学会賞が決定しました。第35回大会（於 共立女子大学）において、2015年10月4日、授賞式が開かれ、植木会長より表彰状と記念の盾が送られました。



論文賞。左より菅頭氏、酒井氏。右は植木会長。



堅田賞（優秀賞）。三瓶氏（左）、時津氏（右）。

受賞者は次のとおりです。今後のますますのご発展を祈念いたします。

- 学会賞 該当者無し
- 論文賞 菅頭明日香氏・酒井英男氏（富山大学）
「Identifying the sources of ancient obsidian artifacts in Shinshu based on their magnetic properties」（『情報考古学』Vol. 20 No.1・2, 2014）
- 堅田賞（優秀賞）三瓶裕司氏（公財 かながわ考古学財団）
「江戸城石丁場遺跡の総合研究（1）（2）」（『日本情報考古学会講演論文集』Vol. 13, 2014（通巻33号）及び『同』Vol. 14, 2015（通巻34号）掲載の業績）
- 堅田賞（優秀賞）時津裕子氏（徳山大学）
「認知科学に根ざした考古学的鑑識技能研究：意義と方法論を中心として」及び「考古学的分類技能の獲得過程：評定課題と主成分分析を用いて」（『日本情報考古学会講演論文集』Vol. 13, 2014（通巻33号）掲載の業績）

第36回大会の開催について

日本情報考古学会第36回大会を下記のとおり開催いたします。

本学会設立20周年にあたり、多くの方のご応募・ご参加をお待ちしております。会員の皆さまには別途ご案内をお送りします。また、周知にご協力ください。

学会ホームページにも情報を掲載しますので、併せてご覧ください。

開催日 3月26日（土）・27日（日）の2日間
場所 九州国立博物館 研修室
（福岡県太宰府市石坂4-7-2）

主催 日本情報考古学会
共催 九州国立博物館

本学会は下記の賛助会員よりご支援いただいています。

株式会社 四門 株式会社 CUBIC
国際文化財株式会社 ほか

日本情報考古学会会報 No.37

2016年1月11日

発行 日本情報考古学会事務局

〒891-0197 鹿児島市坂之上8丁目34-1
鹿児島国際大学中園聡研究室内

E-mail: archaeoinfoiuk@gmail.com

<http://www.archaeo-info.org/>